

## 「NECプラットフォームズ株式会社一関事業所跡地の取得及び利活用に係る方針説明会」の実施概要について

市では、当該跡地の利活用方法及び管理手法等における検討に際し、市の考えを説明するとともに、幅広い分野の方々から意見を聞くため、以下のとおり市内各種団体などを対象に方針説明会を開催した。

### ■ 実施状況

No.	開催日	参加団体	参加人数
1	2月1日	産業振興会議	4名
2	2月3日	東日本旅客鉄道（※同社盛岡支社との懇談会において説明）	5名
3	2月7日	一関商工会議所（役職員）	9名
4	2月15日	両磐インダストリアルプラザ（※同団体の懇談会において説明）	25名
5	3月10日	一関商工会議所（青年部）	10名
6	3月11日	いわて平泉農業協同組合（役職員）	9名
7	3月16日	一関信用金庫、岩手銀行、北日本銀行、東北銀行、 日本政策金融公庫	8名
8	3月18日	一関商工会議所（各部会代表）	10名
9	4月14日	ジョブカフェ一関、いちのせき若者サポートステーション、 日本労働組合総連合会岩手県連合会一関地域協議会	7名
10	4月15日	一関文化会議所、一関市芸術文化協会、いわい美術振興協会	8名

No.	開催日	参加団体	参加人数
11	4月19日	一関工業高等専門学校（教職員）	7名
12	4月19日	一関工業高等専門学校（学生会）	7名
13	4月20日	いわて圏、ハルノ企画、一関市地域おこし協力隊	4名
14	4月26日	一関青年会議所	10名
15	4月28日	一関市まちづくりランドデザイン策定100人委員会	9名
16	5月13日	一関市観光協会、世界遺産平泉・一関DMO、 いちのせきニューツーリズム協議会	7名
17	5月16日	岩手県建設業協会一関支部、同千厩支部	8名
18	5月16日	一関市社会福祉協議会、一関市法人立保育園園長会、 岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会県南地区一関支部、 いちのせき子育てネット	5名
19	5月19日	一関地域区長会連絡協議会	6名
20	6月29日	一関市体育協会	7名
合計		36団体	165名

## ■ 参加者からいただいた主な意見など

※ 5月26日の本特別委員会での説明内容からの追加分はゴシック体で記載

### 1 NEC跡地の取得について

- ▶ 一関市への移住を促すためには魅力のある駅周辺の環境づくりが必要であり、取得費はかかるが今後の市のために取得すべきだと思う。
- ▶ このような駅前土地が一括で取得できるチャンスは二度とないと思われるので、真っ先に市で押さえるべきである。
- ▶ この場所の価値を考えれば、まずは市の考える手法で活用を図り、たとえ失敗しても、それから民間へ売却することも可能である。
- ▶ 市が取得することで、主体的かつ安定的な取り組みが可能となり、将来的な経済効果や、若者や女性の働く場の創出が期待できる。
- ▶ 民間が取得した場合、10～20年程度活用された後に撤退しゴーストタウン化する恐れがあるため、市が取得し安定的な活用を図るべきである。
- ▶ 市の投資分を回収できる仕組みを作ること条件として取得すべきである。
- ▶ 投資対効果が事前に示されれば、より深い議論ができ、誰もが市が取得することに納得できると思う。
- ▶ 取得費が増してしまうとしても、自由な活用を図るために更地の状態で取得すべきである。
- ▶ 本来であれば大きな経済効果が生まれる土地なので、早期に開発を実現してほしい。
- ▶ 多くの市民に取得の考えを理解してもらえるように検討してほしい。
- ▶ 人口減少下で何もせずに市の衰退を待つよりは、市が取得して、全ての年代が生き生きと過ごせる場所を作ってほしい。

### 2 利活用方針について

- ▶ 市民理解を得るためには、NEC跡地の活用イメージを示すことが必要ではないか。
- ▶ 将来の一関市をどのようにしたいのか議論し、その上でNEC跡地をどのような空間にすべきか考えるべきではないか。
- ▶ 雇用や人口が増えると見込まれる業種などを選別し、貸付条件に差をつけることが必要ではないか。
- ▶ 金銭面での負担が少なく開業できるような制度を整えれば、市外からの起業者が多数進出してくるのではないか。

- ▶ 外来的な誘致企業にあまり依存せず、地元の事業者や経済界が参画して土台をつくることが大事である。
- ▶ 駅に隣接した立地を生かし、民間資本を積極的に活用した開発をしてほしい。
- ▶ 地方創生拠点整備交付金の活用や、構造改革特別区域法における特別区域の指定など、計画段階から国になにかを認定させる取組をしてはどうか。
- ▶ 土地の活用を開始するまでに、詳細なグランドデザインを作ることが重要である。
- ▶ 事業主体となる土地開発事業者とともに検討した方がいいのではないか。
- ▶ 土地の開発に当たっては、クラウドファンディングを活用するなど、財源の捻出方法も検討してほしい。
- ▶ 働く世代だけでなく、子供や高齢者、子育て世帯など、市民すべてが利用できる場所になればよいと思う。
- ▶ 一関市総合計画とリンクした取組を意識してほしい。

### 3 駅周辺等のまちづくりについて

- ▶ 一ノ関駅西側の商店街とも連携し、駅の東西がどちらも活性化するように検討してほしい。
- ▶ 駅西側にあるような昔ながらの店舗が廃業しないように、既存を生かしながら新規を取り入れるまちづくりを進めてほしい。
- ▶ 東西自由通路の整備など、駅周辺を面として検討してほしい。
- ▶ 駅の東西を行き来する手法については、工事費をかけずにJRの既存の連絡通路を活用する方法を検討してはどうか。
- ▶ 市民ニーズを調査するため、期間を定めて東西自由通路の実証実験をしてほしい。
- ▶ 歩行者だけでなく車両が通れるような東西連絡道路を整備すべきではないか。
- ▶ 早急に東西自由通路を整備するのではなく、NEC跡地の価値を高めてから、JRと協力して整備した方がよいのではないか。
- ▶ 各地域の商店街が進出する機会を作るなど、東磐井とつながる取組をしてほしい。
- ▶ 沢の踏切や五十人町のガードなど、交通アクセスの改善を含めた都市計画を検討してほしい。
- ▶ 東口交流センターや東口体育館などの市の施設のほか、周辺道路のあり方や東西自由通路なども一体的に検討し、将来を見通した広範囲のまちづくり計画があればよいと思う。